

<訂正版>

男女共同参画委員会 行政訪問 8/28(月)14:00～

大阪府府民文化部男女参画・府民協働課 男女共同参画グループ
統括主査（政策統括）春名克二 様
統括主査 川上一恵 様

平成29年度男女共同参画施策に関する取組について。女性活躍推進法完全施行(H28.4月)に先立ち「おおさか男女共同参画プラン(2016-2020)」策定。

- | |
|--------------------------------|
| 1. あらゆる分野における女性の活躍【労働】 |
| 2. 健やかに安心して暮らせる社会づくり【健康・福祉】 |
| 3. 全ての世代における男女共同参画意識の醸成【教育・啓発】 |

の3本柱で構成され、アウトカム(数値目標)も取り入れ、オールおおさかで取組まれている。

① 審議会は、第10期目(H28.10～H30.9)。委員は多業種の有識者で構成されており、ファザーリングジャパン関西の小崎恭弘氏もその一人。女性比率の目標は40%以上60%未満で、現在は13人中6人。

② 講演会、研修、広報活動などの取組については、男女共同参画推進のための啓発講座を毎年17回程度開催されており、市町村職員向け、教職員向け、企業人事担当者向け、府民向けなどテーマ毎に募集している。

平成29年度の、女性活躍推進リーダー養成講座「OSAKA 輝(キラリ)塾」は6回を実施予定している。また、ドーンセンターに於いて、女性活躍推進月間に合わせたフェスティバルが開催される(9/1、2)。

③ 男性職員の育児休暇取得については、3か月取得した実例もある。

④ 女性相談等については特にDV被害について「大阪府配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画(2017-2021)」をもとに報告いただいた。被害者は孤立しがちでDVと気づいていないケースもある。

ドーンセンターでは、平成28年7月から男性電話相談を実施している。また、女性相談における相談件数は電話・面談ともに増えており、相談内容も複雑、多様化している。必要な機関にどう繋ぐかが課題である。DV被害についての相談窓口は、大阪府女性相談センターで24時間電話による相談を行っている。電話番号は06-6946-7890。

啓発チラシやリーフレットを作成し、高校生向け「NO!デートDV」リーフレット(8万部制作)を、府内の公・私立高校1年生に配布した。大学生の意見を取り入れたSNSの対話形式での事例紹介やチェックリストなど、コンパクトで分かりやすい。大阪府男女参画・府民協働課のホームページに、データ公開しているので広く活用してもらえるような機会を通じて知らせていく。

他府県に比べ大阪府のDV相談件数や保護命令発令件数が多いのは、警察・福祉・家庭裁判所など各機関と連携が取れているからという認識である。

11月には、「女性に対する暴力をなくす運動」期間（12日～25日）にちなんで、パープルリボンキャンペーン（ライトアップ、ドーンセンターでの講座など）を開催予定。府民向け講座として、若年女性の性被害（JKビジネス問題等）。人間関係の貧困をテーマに、講演を予定している。

男性のための電話相談（男性相談員が相談を受け付けます）

○相談時間

第2、第3土曜日 17時～21時まで

その他の週 水曜日 16時～20時まで

※年末年始は除く。また、相談日が祝日にあたる場合は、他の週に振り替えて実施

⑤職員の男女比率は、31,5% 行政職は、31,1%（平成29年3月時点）

職員採用者（一般行政職）に占める女性の割合は、大卒程度では、63,1%、高校卒程度では、47,9%（平成28年4月1日）

学校における管理職に占める登用状況（大阪市と堺市を除く）（平成27年度）

公立小学校（教諭 65,4%、管理職 28,5%）公立中学校（教諭 46,9%、管理職 10,5%）

府立高等学校（教諭 36,5%、管理職 8,1%）府立特別支援学校（教諭 58,8%、管理職 24,2%）

質疑応答（抜粋）

Q.1 プランについて。政策・方針決定過程への女性の参画促進に関わっての意識改革は？

A 管理職向けの研修として入庁10年目の女性に対する取組あり。女性が働きやすい職場＝男性も働きやすい職場。府庁全体で時間外勤務の削減に取り組んでいる。

Q.2 男性DVについて、加害者の更生プログラムは？

A 加害者支援については内閣府で研究中であり、報告書が出されているが、具体的な支援策は示されていない。希望があれば、個別に民間でカウンセリングしているところなどを情報提供。

Q.3 女性の貧困に対して、講座などプログラムはある？

A 小中高の頃から主体的に生き方を選択するためのキャリア教育について、教職員向けに8/3研修を実施。

感想

大阪府の男女共同参画の取組について、詳しく知ることができました。大阪は何かにつけワースト上位に挙げられることが多いですが、各機関と連携が取れていることの現れでもあることを知り、ほっとしました。電話相談や面接を受ける中で「本当に困っている人の声をどう拾いあげ、どう繋いでいくのかが課題」だとおっしゃる姿が印象的でした。暴力や犯罪の根底には、コミュニケーションの貧困さがあるとも言われますが、まずは家庭や地域から、大阪のおばちゃんパワーを発揮して人の繋がりや輪を拓けていけたら…と思いました。